

Urban Design Lab Magazine

平成 23 年度修士論文審査会

The Final Defense of Master's thesis in 2012

— 9 人それぞれの集大成！ —

—The compilation of each nine masters! —

2月7・8日の2日間、都市デザイン研究室の修士2年の9名が、修士論文審査会に挑みました。先生方、先輩、後輩に支えられ、全員無事合格！発表を終えた今、それぞれの胸にある思いはいかに…？

text_yasukawa



Ryosuke Takami

Hiromi Nishimura

Ayane Maekawa

Kenzo Muramoto

Chikako Yasukawa

Kenichi Yabuki

Toru Yamashige

Kenichiro Yoshida

Bongho Lee

氏名	題目	点数	自己採点の理由・感想
高見 亮介	「明治 32 年に開港した港町の近代化に関する研究 - 空間形態と都市構想の変化に着目して -」	80 点	先生方や研究室メンバーの支えがあって何とか結論まで辿り着くことができ、修論を通して港町の近代化にさらに関心をもちました。ありがとうございました。
西村 裕美	「市街地における池空間の成立過程と利用形態の多様性に関する研究 - 大田区洗足池を事例として -」	60 点	考察しきれず時間切れ。洗足池の面白さを十分に伝えられたのだろうか…。けれど、2年間の集大成であり、次へのステップになったと感じています。大勢の皆さんのお陰でここまで来れました。本当にありがとうございました！
前川 綾音	「民間開発により提供される滞留空間の実態に関する研究 - 都市生活者の居場所として見出される空間に着目して -」	70 点	相談の中で先生方に本当に多くの視点を頂き、研究の対象にしていなかったら気づけなかったような見方や魅力に気づくことができ、書いてよかったですと感じています。
村本 健造	「東日本大震災後の歴史的町並み保存への認識に関する研究 - 佐原の復興プロセスにおける主体の関わり方を通して -」	70 点	論文としては現時点では 40 点。しかし先生方の一言一言に励まされ、同輩と共に悩み、頑張り、先輩後輩に支えられたこの日々は 100 点満点と言っていいほど。間をとってこの点数です。
安川 千歌子	「離島漁村における交流を誘発する空間とその成立要因に関する研究 - 三重県答志島答志集落集落を対象として -」	70 点	己の言語能力のなさに悩まされた論文生活…24年間の人生すら省みましたが、自分の「好きなもの」を確信できる収穫がありました。励まし、支えてくれた皆様に、ありがとうございました！
矢吹 剣一	「歴史的市街地における空き家再生活動に関する研究 - 空き家活用マネジメントと地区再生への展開に着目して -」	80 点	スケジュール等はかなり無理は有りましたが、自分がずっと疑問に思っていたことが少し分かったこと、研究を通じて多くの出会いがあったということが大きいです。
山重 徹	「メデジン市におけるスラム地区再生手法に関する研究 - 空間再生と雇用創出の視点から -」	65 点	本当にたくさんの方々のご協力があったからこそ書けたと思い、感謝の想いはつきません。もっと余裕と目的をもって調査をしておけばよかった、との思いからの点数です。
吉田 健一郎	「市民活動団体と中間支援組織によるまちづくり活動の展開に関する研究 - 神奈川県葉山町を中心とした湘南地域の実態を通して -」	70 点	湘南だけでなく全国的な中での葉山の中間支援組織の位置づけをもっと突き詰めるべきだった。難しい場所だったが、テーマがテーマだけに多くの人と関われたのは自分にとって大きな収穫。
李 峰浩	「A study on the chronological transition of Lumbini Development Project, Nepal -Focus on planning and implementation process of Kenzo Tange's Master Plan and the management of cultural heritage -」	75 点	貴重な資料から明らかにした事実の積み重ねに対し、結論が甘かったこと、プレゼンの時に写真や図面などもっと載せるなど、初めて聞く視聴者の立場をもっと配慮すべきでした。終わりに、現地調査など貴重な機会を作って頂いた西村先生に深く御礼を申し上げます。

打ち上げ

@ 本郷

審査会后、同じく審査を終えたばかりの2人の博士と共に打ち上げが行われました。緊張の糸もほどけ、皆晴れ晴れとした笑顔です。思わず寝転がる編集長の姿も…！？



留学生コーナー第 15 弾！

An Essay by International Student vol.15

My favorite town in Tokyo, Ginza

My favorite town in Tokyo is Ginza. The buildings on both sides of the road are lining up in a same height and the town which is built by the buildings are exquisite. It is more amazing when the road is pedestrianized during the weekends, when the perspective of people walking in the middle of the road with modern buildings on both on their sides creates a new style of an outdoor shopping mall. During night, the town is dazzled with the lights from the vehicles and shops. High rise buildings also create shadow to freeze the summer and block the wind to warm the winter. The most attractive part is the European style buildings that in each corner of the road, bringing a classic modern landscape to the town. The trendiest style might have existed from the western luxury shops, but the town can still be a historical and traditional landmark to Tokyo, and yet holding its history as the establishment place of the silver-coin mint in its name.

While Ginza is known as a symbol of modernization for Japan, it reminds me to the town of Bukit Bintang in

多国籍な都市デザイン研の特徴を生かし、長年住んでいると気づかない日本の都市の姿を留学生の新鮮な目で伝えます。第15弾は、マレーシア出身の研究生 ロハスリンダさんです！

研究生 ROHASLINDA BINTI RAMELE RAMLI

Kuala Lumpur, Malaysia. This place is known as a heaven for shoppers and an attractive spot for the tourist. This shopping and entertainment district stylized as Bintang Walk or Starhill is the landmark for shopping centers, cafes, night markers and hawkers. This town is filled with vehicles and trains during day, and filled with lights and music during nights. Although the buildings are not uniformized and varied in size, functions and colors, the trendy and modernized scenario itself have enlighten the town. The centralized buildings in one area also created a pleasant outdoor mall and fit the hot climate of Malaysia.



▲ Bukit bintang



▲ Ginza

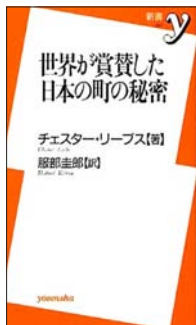
ママチャリの魅力が詰まった一冊

A book telling us the value of Mama-chari

チェスター・リーブズ先生の日本語の著作が刊行されました！

西村 幸夫 教授

都市工学科の客員教授として、私たちの研究室に滞在されていたチェスター・リーブズ先生の日本語の本が刊行されました。「世界が賞賛した日本の町の秘密」(服部圭郎訳、洋泉社、2011年12月刊)です。これは永年、リーブズ先生が研究されてきた日本における自転車利用、それもママチャリ利用に関する本です。



▲ 著作表紙

通常、ママチャリは重くスピードもでないうえに、駅前に乱雑に駐輪されて迷惑だといってやっかいもの扱いされることが多いのですが、リーブズ先生は逆に、ママチャリこそ環境に優しい日本の誇るべき発明だと賞賛してくれて

います。「ママチャリ救国論」とでも言える内容の本です。なぜなら、ママチャリは安価で、男女共に同じように利用しているもので、規格が統一されているおかげで、駅間の駐輪場などに高密度に置くことができるからです。スポーツバイクではこうはいかない、とリーブズ先生は主張します。さらに、スピードが遅いことは歩行者との共存を可能とし、狭い道を安全な道として利用できることにつながります。これをリーブズ先生は「自転車町内」といっています。狭隘道路の地区は、「自転車町内」と見ることによって、実に魅力的なネイバーフッドになるというのです。続けて、公共交通機関の充実を賞賛してくれています。日本大好き人間としてのリーブズ先生の面目躍如です。やや日本の都市に対する評価が甘いと見えるところもありますが、私たちが普段見過ごしている何気ない風景の意味を掘り下げてくれる書として、推薦します。

POPS : Privately owned Public Space 国際シンポジウム開催！

場所：東京大学本郷キャンパス

工学部 14 号館 1F 141 教室

日時：2012年2月28日(火) 9:00-18:00

講演予定者：養原敬氏・出口敦教授・海外の
公開空地専門家・行政担当者他多数

本シンポジウムは、ニューヨーク、メルボルン、ベルリン、台北、バンコク、東京・大阪・福岡などの様々な都市の POPS (公共的な私有空間) に関する考察を目的としています。2月20日から横浜・京都・福岡・大阪、24日から27日は東京の事例を海外の研究者と一緒に現地調査、その成果を28日に発表します。



Privately owned Public Spaces (POPS)
Places, People, Policies, Processes, Projects

Information

2月の予定

- 2月14～15日 卒論審査
- 2月24日 清水PJ現地プレゼン
- 2月28日 POPS国際シンポジウム

★ 編集後記

安川 千歌子

発行が遅くなって大変申し訳ありません！今回は、珍しく記事集めに奔走した号でした。発表が終わったばかりのM2皆にコメントをもらいましたが、「本日中にお願います」という無理なお願いに応えてくれてありがとう！「マガジンお疲れ」の一言に、じわっときてしまいました。最後にして最高のご褒美、編集部やってよかったです。今までご協力頂いた皆様、ありがとうございました！